



発行所:ほかにわ共和国
発行責任者:志賀 俊紀
編集責任者:ほかにわ広報部



三年目の令和の正月

ほかにわ共和国 理事長 志賀 俊紀

ほかにわの杜は、石造りの鳥居から、玉砂利と島鉄(島原鉄道)線路の枕木の七・五・三の階段を進むと、左の林に六地藏がしずかに微笑んでいる。



奥津城前の六地藏も新年を迎える (2面に関連記事掲載)

志賀の福祉文化史の視点で見る創造的支援とは、心証(感謝、感動、希望)と時間(継続)と環境(絆)の5Kの要素を有するとした。



踊り場に出ると、右が奥津城、左が手水舎(ちようずや)、獅子を見て、さらに石組の七・五・三の正面に神が鎮座しておられる。

コロナの鎮静化に祈りを込めて森の充実を図った。

新年を迎え鬼籍に入った二十四名の遺影を奥津城で眺めると、それぞれの顔と思いが交錯する。

さて、令和になって早三年になるが、本年は事業の実践目標検証の時になった。俗に「石の上にも三年」という諺がある。この真意は、努力を三年すれば報われるとか、冷たい石の上でも三年も座り続けていれば暖まってくる。そして、成功することのたとえである。新型コロナの流行は、じつと我慢という生活スタ

令和四年 ほかにわ共和国神社の鳥居前で



イルと、その見直しの中で、私たちがどのような感覚で利用者に向き合うかという課題を与えた。

つまり、自粛生活の大義名分に翻弄されたのではないか、感じてきたのではないか。それは、活動の縮小が対策の一つであるという誤った認識の有無である。

積極的に相手进行いやることで、想像力を発揮して、相手を受け入れることである。

ほかにわの新たな価値意識は三年間で検証できたか

「頑張っているかどうかなんて他人が決めるもんじゃな」と、フ

アイト一発のCMがテレビで放映されているが、仕事は、成果と能力と情意で評価され、そして自分の振り返りが人材を育成する。

松の内も明けぬ一月五日に毎年

感謝・感動・希望・絆・継続

新年職員研修会が開催され、令和四年に四十五回を迎えた。

今、社会福祉法人が期待される不変の役割と使命感は、コロナ禍でじつと息をひそめるだけでは、果たすことのできない日常と非日常の幸せをどのように作り出して

ご縁に感謝

放デイ利用児童(母) 松尾 美智子

松尾家の次女「杏美(あみ)」は、ヤコブセン症候群というまだまだ知名度の低い希少疾患の難病です。杏美は沢山の笑顔を振り撒き、最高の幸運を運ぶ強運の持ち主です。デイ雲柿の木の利用開始時、家族は不安や心配の半面、楽しみと期待、希望の複雑な思いを抱いていました。そんな心配を余所にくぐに雰囲気に馴染み、安堵する日々です。

杏美は、体がすごく硬いので、ストレッチや体操等で柔軟な身体を目指し、大好きな歌やオリジナルの踊りで相手を一生懸命に盛り上げ、物を運んだり、テーブルを拭いたり、自分なりに出来る事を増やしながら、伸び伸びと育ってほしいです。

そして、今はジェスチャーやカードで伝える自分の思いを単語でいいので、伝えられるようになって欲しいです。

最後に、杏美が将来も幸せな人生を歩めるように、多くの人達との貴重な触れ合いを大切に、笑顔の日がいっぱいありますように願うばかりです。



いくかが問われている。福祉文化史の視点で見ると創造的支援とは、感謝と感動と希望、そして絆、継続の要素を有して、共汗共育(きょうかんきょういく)で「それなりに」である。

福祉は、活かし生きるから、活かされ生き、共に生きるに変化している。自分の感じる力と考える力をフル稼働させて、トコトン考え抜く「自己内対話」で、明るく、正しく、直く律することが重要だ。(原口由紀子)

特集

法人三大事事のひとつ「ほかにわ神社祭」
意外と知らない神社祭を詳しく掘り下げてみる。

八雲寮上方に鎮座する八幡神社は、まだあかつき学園にあった昭和四十二年夏、神体を大分県宇佐市の八幡総本宮宇佐神宮より分魂して頂いている。同年十一月二十三日第一回神社祭が行われる。

「まつり」には、「祭り」ー命・魂・霊・御霊を慰めるもの、「祀り」ー神・尊に祈ること、「政」ー神を敬い慰撫・鎮魂し、祈願感謝することと三つの読みがあり、そのすべてが神道に繋がっていると考えるだろう。

神社信仰を受け継ぎ、ほかにわ共和国となった現在でも、利用者・職員共に地域の人々と繋がる為、神社祭は毎年十一月に行われ、地域との交流を深める「文化」となっている。しかし近年のコロナ禍では、人と顔を合わせないのが主な流れとなり、昨年は神社祭も形を変え、利用者と職員のみ参加で開催されるが、



思い出の一枚

昭和48年、新築した神殿で神事を行う先代宮司・志賀幸村翁と志賀俊紀理事長



令和3年11月、ほかにわ神社祭神事が執り行われた。

六地藏

表紙にて写真が掲載されている六地藏ですが、なぜ鎮座しているのが六体なのか？六道※1（修羅・人・天・地獄・餓鬼・畜生）を巡りながら人々の身代わりとなって苦しみを背負ってくださるといふ信仰から、六体が祀られることとなった。

※1 修羅…阿修羅が住み、終始戦い争うために苦しみと怒りが絶えない世界。人…人間がいる世界。天…天人が住まう世界。地獄…罪を償わせるための世界。餓鬼…腹が膨れた餓鬼がいる世界。畜生…鳥・獣・虫など畜生の世界。

本来の目的である地域との交流(顔を合わせ、情報を互いに共有して身となる)「絆」ができず、「絆を断ち切ってしまう、それでいいのか」と志賀理事長は憂慮する。

ほかにわ神社祭が地域との交流を深める、つまり利用者が社会の一員として尊重され生活できるような、交流の場として存続させたいと職員一同願っている。

さて、感染症の為に、長年続いたほかにわ神社祭を止めるのは、地域の人たちとの絆を深める場が無くなってしまいうのに他ならない。形を変えて、感染症のリスクを少なく、かつ、地域との絆を断ち切らないための神社祭…一昨年、去年と、直会に地域の方たちを呼ぶのは自粛していたが、コロナの感染状況が落ち着くに伴い、保育園の演舞を始め、縮小した直会にも役員を招待し、少しずつ元の姿に近づいてきたところの神社祭に近づけるよう努力したい。バリアフリー障害ありなしで、そこにいるみんなが繋がり、楽しむ神社祭を目指したい。

かつては同じ法人だったあかつき学園やあけぼの学園にも同じ方針が書いてある石碑があります。その方針の漢字が違うことはご存じですか？



保育園児による「ひよっこ踊り」

これ知ってる？

ミニ知識

ほかにわ共和国の基本方針のひとつ「共汗共育」。

かつては同じ法人だったあかつき学園やあけぼの学園にも同じ方針が書いてある石碑があります。その方針の漢字が違うことはご存じですか？

八雲寮の石碑には「共に汗を流し、共に育つ」共汗共育、あかつき学園は、「利用者一人ひとりが仕事に興味を持つことで、わくわくして毎日を楽しく過ごせる」共汗共育、あけぼの学園は、「利用者一人ひとりと周波数が合わり奏でるハーモニーが響き渡る」共汗共育。

場所は違えど、利用者との関係を大事にする心は同じですね。

売りたいがなう



デイ雲・木工班では現在、主にリモコンスタンドやペン立て、キーフックなどを制作しています。1つひとつ手作りでデザインも多様です。

製品はデイ雲の他、口之津港フェリーターミナル内の売店「はあとふる」でも販売しています。

(デイ雲)

～法人の動き～

- ・理事会 (3月)
- ・辞令交付式 (4月1日)

MYZIL MYZIL MYZIL MYZIL

家庭菜園をこの夏より始めました。

きっかけは、近所の人から野菜の苗を貰った事と家族から『野菜を買えば高たっかけん作らんね！』と進められ、嫌々始めることになりました。自分の育てた野菜の成長過程を見て行く内に楽しくなり、解らないことは本やネットで調べ、次の休日は、『あれをしよう！』『これもやらないといけない！』など予定を立てることに夢中になっていきます。今まで、白菜、キャベツ、チンゲン菜、ブロッコリーなど収穫しました

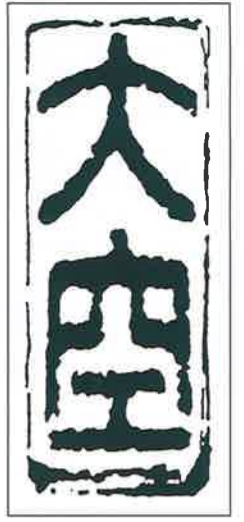
が、どれも満足いくものではないかもしれません。もっと野菜のことを勉強し、うまく作れる様に頑張ります。

ワークネット

やはた

綾部 佐吉





障害者支援施設 八雲寮広報部

久しぶりに家族に会えて 嬉しかったよ

長崎県内の感染状況もようやく落ち着いてきました。これまで家族と会える機会が少なかったため、利用者皆さんの希望を尋ねると「一番多かった意見が「一緒に旅行にいきたい！」でした。全員で行くことは難しかったので、今回は個別の家族旅行として計画しました。

日程が決まりご本人達に伝えると、普段の会話からは見る事の出来ない表情をされたのが印象的でした。離れて暮らす利用者にとつ



諫早・大村・佐世保方面の利用者と、家族の方との集合写真

食は健康にも病にも

人間の行動で二面性を持つ物は「食」です。健康の源は食であり、病の基でもあります。

現在、国内での施設給食の実態が大きく変わりつつある中、この度の食品衛生法の改正に伴いHACCP（ハサップ）での衛生管理が義務化された事で、八雲寮では法令に伴い、より安全な食事を目指して、栄養士・調理員一同遂行中です。食事とイベントなどのメニューを考えて、これからも喜ばれ、安全で美味しい食事を提供できるように務めていきたいです。



おせち料理

今後の行事
2月 節分
年祝い
3月 活動発表会



年の始めの〜

千代垣荘では、一年を通して七回の誕生会が行われています。

「おめでとう！」と、言われるのが嬉しいのやら照れ臭いのやら。老いも若きも、その日は特別な日を迎えます。その特別な日を迎える時は、自分で選ぶホルルのケーキ。ケーキには「おめでとう〇〇さん」と書かれ、年の数だけのロウソクを吹き消す姿はいくつになっても笑顔になり、嬉しいものです。



松田雅久さん 48回目の誕生日



思いのこもった厚意により、山間から調達させて頂いています。

遠い昔より、お正月に年神様が迷うことなく各家に來られるよう目印になるのが門松と考えられています。

昨年、コロナ禍で色々不自由な生活を強いられ大変な年でした。

二〇二二年が明るい年になるように願っています。



利用者玄関前で笑う門松

がんばらんば宣言

毎号掲載しているがんばらんば宣言
今回ご紹介するのは・・・？

福田正昭さん



毎朝、ニュースや新聞をチェックすることが日課です！

入所日 昭和62年4月1日

じゃがいも雑感！

今年、寅年。虎は、日本に生息していないにも関わらず、日本では昔から慣習的に登場したり、民芸品がつくられたりするなど人々に親しまれてきました。

ここで、干支にまつわる豆知識。干支には裏干支というものがある。干支には十二支を時計のように円形に配置した時に、ちょうど自分の干支の反対側にくる干支です。私は戌年なので、反対側にくる干支は辰年となります。

干支は、自身の守りになると昔から言われていますが、裏干支は自身の足りない部分を補いそれぞれを高めてくれる役割があるとされているそうです。自身の干支を飾る際には裏干支も一緒に飾ることで、よりいっそう効果が高まりそうかな予感がします。

裏干支である「辰年」の方が身近にいますので、見習うべき所は見習って、自分に活かせるようにしていきたいと思えます。

副主事 中村要平

作業支援員 林田健太



福まつり

毎年、十二月に入ると門松の材料集めから始まります。材料となるものは、お知り

総務主事 松尾喜一



1月号 No.204



笑顔で一年を締める

謹賀新年。コロナ禍の落ち着きもありデイ雲の年末年始は笑顔の多いものとなった。

感染対策を十分に行った上で皆さんが待ちに待った忘年会を南有馬の「割烹城」で十二月九日に開催。久しぶりの外出に数日前からウキウキしていました。

当日は天候も良く、会場からの送迎バスまで歩く際も、いつもは足取り重く歩かれる方がルンルンと歩かれており、とても楽しみにされている様子。

会場に着くとたくさんのごちそうが並び、皆さんの笑顔がもつと輝いていました。竹原さんの司会で開会し、所長の挨拶、高濱さんの乾杯の音頭で歓談の時間にお



利用者の皆さんの笑顔が溢れていた忘年会

Happy Christmas

～新年に向けて～

年末の大きな行事でもあるクリスマス会。今回はコロナ禍が多少落ち着いていたこともあり、カラオケの時間を設けました。感染予防のため歓声はなく拍手のみでしたが、歌唱された方は久しぶりに歌声を出し満足された様子でした。そしていよいよ皆が楽しみにされていたクリスマスプレゼントの交換です。受け取ると利用者さん同士で中身を確認し合いながら喜ばれていました。最後に皆でケーキやお菓子をいただきました。

居室内には利用者さんの手作りのクリスマスリースと、皆で飾り付けた大きなツリーもあり華やかな雰囲気。令和三年も残り一週間となり「一年が経つのは早かねー」と語りながら新年に向けて楽しいひと時を一緒にすごす事ができました。 光長 まゆみ

箱田さんの音頭で万歳三唱を行い、お開きに。たくさんのごちそうに「おいしかった。おなかいっぱい」と満足された様子で、一年間の締めくくりができました。

指導主任 山本 智恵美

一年間健康で安全に過ごせますように

一月になると初詣と鬼火焚きの行事で一年間の無病息災を願います。今年の初詣は諏訪の池の神社へ。鬼火焚きはデイ雲の畑を利用して行いました。

初詣では皆さん一年間を幸せに過ごせるようにと願いを込めて賽銭を投げられていました。中には一言では終わらずに二言と願われる方も。鬼火焚きでは火であぶった餅を食べて今年一年間を健康でありますようにと。まだまだコロナ禍

ではありますが、今回の二つの行事で皆さん一年間を無病息災、無事過ごすことが出来ますようにと心から願っています。 高松 豊



デイ雲では木工班で作業を頑張っています。これからもよろしく願います。

口之津町の自宅から通われている定方祐之さんです。



個性を形に ～創作活動～

四季ごとに変わる玄関内のディスプレイや居室内の装飾。これらの創作品は、利用者の方々が協力し合い作られています。ハサミ作業が得意な方、色塗りが得意な方、配置作業が得意な方がそれぞれに力を発揮されます。繊細にゆっくりと時間をかけて色塗りをされた作品と豪快に力強く塗られた作品が合わさり感動するほどの大作が出来上がります。皆さんそれぞれの個性を活かして創作を楽しまれています。作品は二月の活動発表会の際、展示を行う予定です。 下條敬子



新年にあたり、昨年がどのような年であったかを振り返りました。今もまだ続く新型コロナウイルス感染。その中でも利用者の方々が求めることは「行事」です。そのニーズに答える為、感染対策をとり実施してきた「花見外出」や「利用者忘年会」。そこで利用者の方々に共通して見られたのは「笑顔」でした。あふれ出る笑い声を聴き、楽しんでる姿を見ることで「行事」の大切さを改めて感じる事が出来ました。以前のようにとまごはいきませんが「新しい生活様式」を取り入れることで、皆さんに楽しんで頂けるよう今年も職員一丸となります。総務主事 福田 亮

雲と虹

行事予定 2・3月

- 合同年祝い
- 節分
- 活動発表会

※状況により延期・中止になる場合があります。

悠炉里

共同生活援助事業所

(介護サービス包括型)

悠炉里広報誌

利用者満足の年に向けて

悠炉里 施設長 志賀常盤

昨年、コロナ禍に翻弄される事業運営の中、感染対策を講じながら、利用者の「楽しみ」を提供できるよう、職員一丸となって取り組んできました。しかし、利用者の本当の「楽しみ」であるところは、家族等との関わりではないかと思えます。面会制限や帰省の見合わせなど、多分にストレスを感じていただと思われま

また、事業活動においても、「三か年計画」と題し計画を立て、その中の一には地域住民との交流イベントを目標にしていきましたが実現できていません。計画の見直しや、実現可能な方法を模索している所です。

先に述べたように、環境要因に慣れつつ前に進むためには、コロナの「せい」にせず、正しい判断と適切な方法を打ち出し、利用者が満足できる生活を送れるよう、新たな気持ちで邁進したいと思います。



「みんなが健康で幸せに過ごせますように」

スポットライト



七月よりデイ雲で働いている、紫雲荘の小笹友幸さんにお話を聞きました！

Q1. デイ雲での仕事はどうか？

— 少しずつ慣れてきましたが、入浴支援がまだ難しく感じます。

Q2. どういうところにやりがいを感じますか？

— 利用者さんから「ありがとう」と言ってもらったときに嬉しく感じます。

Q3. これからの目標は何ですか？

— 他の職員さんに追いつけるよう努力していきたいです。

虐待防止研修～対人感情の両価性～

全事業所で毎年取り組んでいる虐待防止研修、悠炉里では専門の先生をお招きし、職員が抱えている虐待に関する悩み・疑問を投げ掛け専門的な部分からご意見、アドバイスを頂き正しい知識や的確な支援等を勉強しました。

常日頃関わり合いが深い、利用者、子供、パートナーなどに対する愛情が深くなればなる程、裏側では嫌い・拒否という相反する感情も育つていくこと。何かのきっかけでその相反する気持ちが行動として現れたものが虐待として起こっていることでした。私たち支援者も、より深く利用者や仲良くなるうとしていますが、相反する感情を作らないためには、いつの間にか溜まっていくストレスを解消していくのも仕事をすることで必要な事の一つだと学んだ研修でした。

一人ひとりに合わせた支援をできるように日々精進します！

研修部 井上 翼



1月号

玉垣荘 開所！！



11月初旬、友垣荘の3名、紫雲荘の2名が引っ越し、加津佐本町商店街に新しく「玉垣荘」として開所しました！

一般就労している方、就労継続支援B型を利用している方、それぞれの生活時間が違いますが、掃除、食事作りなど協力して生活しています。みんな揃ってのクリスマス会、お正月は帰省された方、ホームでゆっくりされた方と、各々で楽しく過ごしました。新しいホームでこれからたくさん楽しい思い出を作りたいです！

担当 竹市香織



NEW FACE



昨年十月より悠炉里に新しく配属となった、田中誠さんです。

自分ができることは自発的に頑張ろうと思えます！ よろしくお願います！

しゅるりと

新年あけましておめでとうございます。コロナ禍の波も落ち着いてきて、ほかにわ共和国でも二年ぶりに帰省が解禁になりました。利用者やご家族の方が喜んでいるところに新型コロナウイルス・オミクロン株が拡大しような状況になっている現在、いつ市外への外出が禁止になるかわかりません。

今年もグループ活動や事業所単位でのイベントは利用者がより楽しんで頂けるように取り組んでいきたいです。

休日には部屋で寝ているだけの趣味を持たない利用者も多く、個人個人が趣味を持ち、「休日や空き時間を有意義に過ごす」をテーマに取り組んでいきたいと思えます。

悠炉里 副主事 生川順一

今後の行事予定

◎ホーム活動 ◎悠炉里自治会年祝い

我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌 1月号

三年目を向えるコロナ禍に 新たな就労支援を目指して

施設長 原田秀範

新年のお喜びを申し上げます。併せて、旧年中より新型コロナウイルスの禍を被られた方々に対し衷心よりお見舞い申し上げます。

当事業所におきましても昨年中は、就労事業活動に大きく影響を及ぼしているところと見做す。また、利用者の社会活動も働く・暮らすとともに制限され、楽しみが減少した毎日が二年も続いています。今年こそは従来の経済・社会活動復活を願っているところですが、新型コロナウイルスが今後どのような変異して人類に影響を与えていくのか

懸念されるところです。セルプ協は新たに利用者や職員が地域と協働しながら「楽しく働き、心豊かにくらす」をテーマとして会員の目指す姿を示しています。当事業所も近年利用者の「豊かさ」を探究していますが、未だその実像が見えてこないのが事実です。

社会情勢はどうあれ前進あるのみ、利用者の幸せを願い今年もまた努力を続けていく所存です。引き続き御支援を賜れば幸いです。

- ・成人式（1月）
- ・節分
- ・歳祝い
- ・誕生日会



千々石町の楠神社にて参拝

ぺったんぺったん



12月28日、毎年恒例のもちつきを行いました。毎年、保護者の方と一緒に行っていましたが、感染症予防のため利用者、職員での開催。餅丸めでは、きれいに丸めている方、難しい方は職員の手を借りながら、楽しまれました。出来上がった餅は、あんこ餅やべた餅（さつまいもを混ぜた餅）、きなこ餅にいただきました。



来年は保護者の方を呼んで開催できるように感染症収束を願うばかりです。

（白石祐貴）



来年もはりきっていこう!!

今年の忘年会は、感染症予防を十分にを行い、町内の飲食店で開催。「来年もはりきっていこう」の文字は、利用者の方に書いてもらい、力のこもった題字が完成しました。会の途中には「チョコっとインタビュー」と題して、振り返りや来年の目標をインタビュー。それぞれの思いが伝わってきました。

最後はお待ちかねの「お楽しみ抽選会」を開催。特等は5,000円のお買物券！今年最後の運試し「もっと後に呼ばれたかったー」などいろんな表情を見せてくれました。来年もワンチームで、はりきっていききたいと思います。

（林田まゆみ）



めしあがれ〜♪



ワークネットやはたの今日のこの人

名前 野口貴嗣 さん
出身 雲仙市千々石町
趣味 漫画や絵を書くこと



作業内容は？
朝 町内の飲食店で清掃作業
昼 事業所で衣類製品のたたみ作業や製品の洗い作業を行っています。
昨年を振り返り
実習を通して、社会の中で役に立てたと思います。
今年の目標
実習や作業を通して一日一日成長できるよう頑張ります

散歩道

障害のある方が地域で生活するようになってきたといってもまだまだ一般就労先も通所先や休日の過ごし場所、過ごし方も限られていると感じます。選択肢を広げる事により、豊かな生活へと繋がります。社会参加の幅が広がっていくものだと感じます。

利用者の方と、寄り添いながら本人、家族の思いをくみ取り、今何ができるのかを考えながら、もう一歩踏み込んだ支援が、大切であると思っています。

相手をいかにどう思うか「幸せ」のために「寄り添う支援」の意味を考えながら共に過ごしていきたいと思っています。

今年もよろしくお願ひします。

（松尾浩道）

しんぼん、しんぼ

笑門来福

デイ雲柿の木 所長 原口 由紀子



新年あけましておめでとう
ございます。

旧年中は格別のご高配を賜
り、厚く御礼申し上げます。

今年、十干は『壬』、十二

支は『寅』で、『壬寅（みず
のえとら）』です。十干と十

二支を組み合わせは六〇通り
ありますので、還暦を迎える

年には、誰もが生れ年の干支
を迎えることとなります。

さて、新型コロナは、まだ
私達の暮らしや考え方に大き

く影響していますが、昨年四

月より、当事業所の施設長を
拝命して何とか九ヶ月が無事
に過ぎて新しい年を迎えた事
に安堵しています。

職務として、事業所の方向
性や職員が団結して目指す方
向に進んでいるかを振り返る

余裕もなく、実はこの記事に
苦慮しています。

利用してくださる方々に何
をしたらいのか。職員が働

きたいと思う職場であるため
に何が出来るか。時に相反し

ながら、全て双方のバランス
をとる位置に自分が立ってい

今年の抱負!?

新年を迎え、すがすがしい表情
で柿の木にやってきた皆さん。

絵：石川智広さん「寅」

近年「お正月らしい遊び」という言葉も半死
半生語になりつつありますが、懐かしさもあり
書き初めをする事になりました。「こま」「ふ
ゆ」等お正月の趣きを感じる言葉の後、年頃の
職員が書く「婚活」の字…。

改めて新年の目標を掲げる
場だなど感じ、和やかに新
年が始まりました。

(寺田容子)



神聖な新年を迎える

ほかにわのないオンラインワ
ンな正月しめ縄飾りで新年
を迎えることができたなら、
素敵な一年になると思いク
ラフト職員研修を計画しま
した。



しめ縄は男性職員が力強く立派な縄
を作り、作り手の好みや、年齢や性別
の違いを考えながら、私が飾り用の小
物を準備しました。皆さん真剣にリ
ス作りに取り組み、会話もたくさん飛
び交い、笑いもたくさんあり、出来上
がった正月飾りは、ほかにわのないオン
ラインとなりました。(中村知佐美)

言の葉

年の瀬、利用者忘年会が開催さ
れましたが、その中で毎年恒例と
なっているのが、『今年の振り返
り・来年の抱負』を発表すること
です。一人一人マイクを向けられ
発表するその姿は、少し照れたよ
うでもあり、凛々しくも見えま
す。多くの方が、作業Ⅱ仕事の内
容を語られ、人にとつての仕事の
大切さを改めて知る時でもありま
す。人にとつて仕事とは、生活を
するための手段はもちろん、そこ
で社会と繋がることで、自身の居
場所を見つかることができます。
仕事を遠して達成感を味わい自身
を成長させる多くの意味がありま
す。同様に利用者の方たちも、自
身の仕事に誇りを持って生活をし
ていると、改めて感じることで
きます。

私たちが、寄り添って出来るこ
と、つまり仕事を通しての訓練や
リハビリや、余暇の充実を図りた
い。今年は今更なる企画力の向上に
邁進したいです。

(福田恵理)



令和4年の無病息災を願います



お正月を一緒に過ごそう!

ようやく年末年始の帰省
を実施し、三名の入居者が
家族とお正月を過ごすこと
ができました。感染症から
の安心・安全を確保するた
め帰省前後の抗体検査によ
るコロナ感染症の陰性を証
明していただく方法を取り
ました。二年ぶりの四泊五
日は、普通の暮らしが私達

です。

(福田恵理)

「ガースー」の
かきのきくッキング!
—GHと日中の献立と調理を担当する栄養士こと
“ガースー”に人気メニューを紹介してもらいましょう—



今回は、鬼火の日に
提供した『七草弁当』
です。“せり・なずな
・ごぎょう・はこべら
・ほとけのざ・すずな
・すずしろ”春の七草。昔から1月7日か
ら、無病息災・長寿健康を願い、七草が食
べられてきました。柿の木でも毎年鬼火を楽し
みながら、七草を食べています。

(菅奈緒美)

ようこそ 柿の木へ☆



一生懸命が
んばります
栽培が得意
です

支援員 吉田亜紀さん

志賀のダウン症研究の原点

私のダウン症研究の原点は、1962年9月、精神薄弱児施設あけぼの学園に県立浦上学園卒業の一人のダウン症児瀬戸晴彦(蒙古症,1947年3月生)が入所したことに始まる。1967年、私は、年長の瀬戸外28名(5名ダウン症)のメンバーと起居をともにした。当時、ダウン症に関する書籍などが散見できず1968年、長崎大学教育学部水田善次郎の講座を受講することになった。

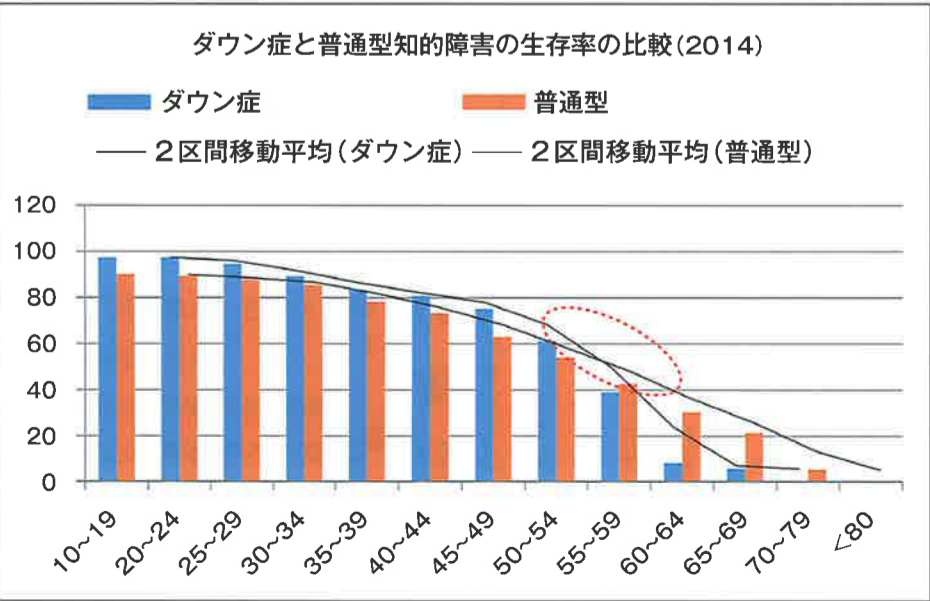
水田は、ダウン症の寿命に関して、30歳ぐらいが限界で、教育効果も望めない。就職は無理であるという。実は、県立浦上学園長小曾根が瀬戸を引率してきた時も、水田の指摘したことを示唆していた。それにしても、「蒙古症の子どもは短命で30歳ぐらいでしょう。」には衝撃を受けた。楽しく生きる秘訣はないのか、試行錯誤の中で編み出したのが、志賀式5Kの実践であった。

5Kとは、心証に感動・感謝・希望、環境に絆、そして継続こそが力なのである。そして生活のリズムを「日常」と「非日常」に分離して実践した。その結果施設での生活は長生きを保証する形となった。ダウン症も例外ではなかった。

私のダウン症の研究も佳境に入ってきた。中世期のイタリアマントヴァ公国に三枚の肖像画を見ましたが、そのときのダウン症らしき乳児は4歳で他界していることが分かった。この肖像画に関する研究は示されていないが、わが国へダウン症の寿命が示されたのは、富士川遊著『教育病理学』(1910)において、「稀には、二十五歳乃至三十歳まで生き延びるものもあるが・・・」とある。今やダウン症は還暦までは生きられる時代になった。

下のグラフは2014年にほかにわ共和国が調査したダウン症と普通型知的障害者の死亡に関するグラフです。昨年度から今年度は5名の他界がありました。中村さん69歳、猪目さん65歳、下釜さん69歳、山下さん55歳、そして太田さん80歳でした。皆さんは静かに天国に旅立ちました。

そして彼たちは、アルツハイマーの痕跡も残さず、死の直前まで会話が可能でした。昨年権田八幡神社に隣接して整備された「奥津城」に在りし日の輝いた顔の写真が奉納されています。下記のこのグラフで注目するところは、赤い点線でクロスするところがダウン症の「退行の前兆」と考えられる重要なポイントです。新たな知見なのです。



昭和四十三年夏の貴重な写真である。林田さんが昨年の暮れに九十四歳で他界されました。林田さんは、私の最初の男子職員の部下でした。私が二十四歳で、林田さんは四十一歳、初老の年に勤務されました。自宅は、施設から一番近い近所、林田夫妻は二人とも勤務していたただた由縁もあります。林田さんは、退職の時、「寮長、おいが死んだとき、弔辞ば頼みます」という約束を交わした。その約束を果たすことができて感無量だった。

会葬の謝辞で、次男の悦二さんは、一父は酒が大好きで、学園のことや利用者や汗を流したことが、志賀式5Kの実践であった。また、悦二さんは、一父は酒が大好きで、学園のことや利用者や汗を流したことが、志賀式5Kの実践であった。悦二さんは、一父は酒が大好きで、学園のことや利用者や汗を流したことが、志賀式5Kの実践であった。



マサ子66才・幸村70才・俊紀24才・林田41才

金澤翔子さん大活躍

金澤翔子さんの個展が東京六本木ヒルズの森ビルギャラリーで開催されました。翔子さんと言えば、ダウン症の書家として有名でその活躍は、ダウン症者のみならず障害を持つ人たちと関係者に大きな感動を与えています。私は、十二月二十六日の午前中に本人とお母さんとお会いしてきました。お母さんは八雲寮を訪問したことをよく記憶されており、当時の写真を四枚渡しました。翔子さんも大喜びでした。あの時から七年半になりましたが、翔子さん

は一人暮らしを始める直前のことでしたので、八雲寮が印象に残っていましたという感想でした。私も元気そうな翔子さんを見て元気をもらったような気になりました。そして、翔子さんのピースで写真に納まりました。金澤さん親子を挟んで、右が筆者です。左は茨大時代の親友の藤本元さんです。彼は奈良県出身、わが国で、椎茸が一年中食べられる革命を起こした研究所が実家です。

新春職員研修会
 コロナの影響で合同での開催は二年ぶり四十
 五回になった。松飾の内に清々しい心で、学
 ぶことは幾つになっても身が引き締まる。「今年
 も頑張るぞ」と心に誓って、前進だ☆



個展会場ロビーで